

No	受付日	意見箇所	意見	回答(案)
1	11月3日	(未記入)	二酸化炭素が気候変動や温暖化の原因とは言えない。寒冷化している国際学会の見識もある。	<p>ご意見いただき、ありがとうございます。</p> <p>本報告書は気候変動影響の総合的評価を行うものであり、気候変動の原因について解明するものではないため、報告書の修正等はいたしません。</p> <p>なお、20世紀後半の温暖化については、IPCC第5次評価報告書の第1作業部会報告書の政策決定者向け要約において、「1951年から2010年の期間にわたる世界平均地上気温の上昇に対する、温室効果ガスの寄与は0.5～1.3℃の範囲である可能性が高く、エーロゾルの冷却効果を含むそれ以外の人為起源強制力の寄与は-0.6～0.1℃の範囲である可能性が高い。自然起源の強制力の寄与は、-0.1～0.1℃の範囲である可能性が高く、自然起源の内部変動性の寄与は-0.1～0.1℃の範囲である可能性が高い。これらの評価された寄与の合計は、同じ期間に観測された約0.6～0.7℃の温度上昇と整合している。」としており、人為起源の温室効果ガスなしで20世紀後半の気温上昇を説明することは困難です。また、20世紀前半の温暖化については、第1作業部会報告書第10章において、気候の内部変動だけである事による可能性が非常に低い(very unlikely)。強制力や応答の不確実性及び不完全な観測網により、この温暖化に対する内部変動、自然起源の強制力、人為起源強制力からの寄与を定量化することは困難であることを明記しています。</p>
2	11月11日	(未記入)	<p>基本的認識が「世界的な気温上昇が気候変動の主因になっている」のようで、それを疑いもしないで、それを後押しするような報告に焦点を当てています。世界的には、気温が上昇しているエリアもあれば、気温が低下しているエリアもあります。また、水面上昇しているのはどこで、逆に水面が低下している報告は全く取り上げられていません。水面上昇と地盤沈下をごっちゃにしている可能性も高いです。</p> <p>これからは、気温が逆に低下していくという意見もありますが、それを取り上げることもなく(重視せず)、一方的な報告内容となっていると感じます。世界的に気温上昇が進んでいるという先入観を取っ払って、客観的な分析が必要では？</p>	<p>ご意見いただき、ありがとうございます。</p> <p>本報告書は日本国内における気候変動影響の総合的評価を行うものであり、世界各地を対象としたものではありません。なお、日本国内における「気候変動の観測結果と将来予測」として、本報告書第2章では日本の年平均気温が様々な変動を繰り返しながら有意に上昇しており、1898～2019年における上昇率は100年あたり1.24℃(信頼水準99%で統計的に有意)と記載されています。</p>

No	受付日	意見箇所	意見	回答(案)
3	11月13日	(未記入)	<p>温室効果ガスの削減は、気候変動対策の国際的な世論である。この報告書はこれを踏まえたものと理解している。気候変動による影響を産業ごとに纏めるのは有意義だと思うが、そもそも気候変動の原因とされる温室効果ガスの削減で産業構造が激変することによる影響についても評価すべきだと思う。</p> <p>例えば、石炭利用を止めて再エネ利用に転換すべきだ、という市民団体(学会会議も関与)の意見が支持されているが、産業構造の激変を伴う。そこには、社会の屋台骨を支える鉄鉱石の還元あるいは、電力の安定供給などについての危惧も考えられる。一方で、彼らは、再エネの拡大による二次被害(再エネ機器の大量廃棄による恒久的な環境汚染)については全く触れていない。ある学会で、革新的な次世代技術が紹介されたとき、ある聴講者から「その技術により生み出された革新的な材料・機器はいずれ廃棄物になるのだが、適正・安全に処理する方法を教えてください」との質問があったが、司会者により遮られてしまった。これらは、気候変動説がなければありえない議論であり、この報告書でも公平な立場で踏み込むべきである。</p> <p>再エネ利用は、現在の国際世論に沿ったものであり適切に推進すれば良いと思う。一方、50年前の化石燃料の不安定供給により原子力利用が推進された当時、多くの国民は放射性廃棄物のことを明確に知らされないまま、その魅力だけを聞かされて有頂天だった。それが今では、将来世代に累を及ぼす大きな課題をもたらしている。</p> <p>日本は欧米諸国とは異なり、資源の海外依存、電力の国内自給(域内融通が不可能)による方法しかないことから、欧米諸国と足並みを揃えることは難しい。</p> <p>この報告書では、気候変動の産業への影響だけではなく、その原因とされている温室効果ガスの削減による産業への影響にも踏み込み、国民の産業へのリテラシーを高めると共に政策決定者の判断の一助としなければならない。</p>	<p>ご意見いただき、ありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。</p>